

三ツ、中禪寺ヨリ黒髮山ノ絶頂迄ハ三ツヨアリ、峻嶮ナリ、毎歲七月七日、登山ノモノ群集ス、
〔下野國誌〕庚申山

安蘇郡足尾郷赤岩と云所にありニ子山の峯つゝきなり、日光山より西の方にあたりて七里許あり、黒髮山の南の方にあたれり、さて足尾より凡十町餘り行て、二十町登り、たふげよりまた十町餘り下る、此所より銀山まで、一里のあひだ澤つたひに行、それより登ること三里餘りにして、庚申山の胎内竇タマノマサキと云岩窟に至る、此所に休息して登るなり、奥の院と唱ふる所まで、其所より一里許、さて胎内竇といへる石室は、凡廣さ十坪許もあるべし、夫より二十間許登りて、左右に大石たてり、高さ五六丈もあるべし、其形彼二王の如し、是天工にして絶妙なり、また登ること一町餘りにして、臺石と呼ぶものあり、廣さ五坪許もあらん、自然にして砥の如し、起て四方を眺れば、此山中の風景坐シテながらにして盡すなり、是より下ること二間餘りハ、甚しき險阻にして、鬼の鬚鬱カク

と呼る所なり、また下ること二町餘りにして、自然の石橋あり、其長さ二間餘り、廣さ凡五六尺許あり、此橋より少し登りて、自然の石門たてり、是を一の門と云なり、東向にて其大きさ二十間餘りなり、中函二間許、左右の小竇各々九尺許、門の形は琴柱に似たり、是より二町餘り行て、左の幽谷より數十丈、峙たる大石あり、塔の如くにしてまた檜に似たり、叢樹頂に生ひ茂りたり、是また奇なり、また下ること二町餘りにして、裏見の瀧あり、水流の幅五六尺もありて、高きことは計難し、すべて日光山の裏見ノ瀧に似て、其奇は彼所に勝れり、是より五町餘り登りて、右の方に白き巖五ツたてり、文字石と名つく、其高きこと計難し、此石に庚申の文字ありと云傳へたれど、慥ならず、また登り下り、一町餘りにして石門あり、是を二の門と云、大きさ三間許あり、中央の通り九尺許あり、其岩窟を凡一町餘りくゞり行て、燈籠の形なる石あり、凡高さ四五丈許とも覺ゆ、また登ること數百歩にして、鐘に似たる石はるかに見ゆ、凡高さ二三丈もあらんか、蘿生兎絲生ひて、真に